

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 16 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23530508

研究課題名(和文) 2008年米国発不況に対する戦略的対応：日米製造企業のケース

研究課題名(英文) Strategic Responses to the U.S. 2008 Great Recession: The Case of Japanese and U.S. Manufacturing Companies

研究代表者

並木 伸晃(NAMIKI, Nobuaki)

立教大学・経営学部・教授

研究者番号：70303104

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円、(間接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：研究プロジェクトでの一つ目の目的は、不況勃発時に、企業が持っていた資源(例：スラック(余裕資源、資金)、競争力や社会的資本)が、不況勃発時と景気回復時により高い業績につながるかを調べることであった。殆どの研究論文で、資源(特に財務的スラック、技術革新能力、外部的社会資本)を持っていた企業が、不況勃発時には余り業績に関係無いが、景気回復時により高い業績を上げていた。2つ目の目的は、スラックを不況勃発後数ヶ月の間に使用することが景気回復時においてより高い業績を上げられるかを検証することであった。殆どの論文で、スラックを使用することによって、景気回復期により高い業績を上げていたことが分かった。

研究成果の概要(英文)：One of the objectives of this research project was to find whether or not firms with slack resources, innovative capabilities, and/or social capital at the recession's onset outperformed those without these resources during the recovery stage in the recession. Almost all research studies indicated that companies with slack resources, innovative capabilities, and/or external social capital outperformed firms without those resources during the recovery stage of the Great Recession. Another objective was to investigate whether or not companies having enough slack resources at the recession's onset should utilize those slack resources during the initial declining stage to gain faster recovery in later stage of a recession. Many research studies supported that firms which utilized slack resources outperformed those which did not use such resources.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学

キーワード：不況 戦略的対応

1. 研究開始当初の背景

競争戦略の分野では、伝統的に産業内、または、隣接業界内の競争相手との戦略を研究してきた。しかし、不況下での競争戦略は、今まで殆ど研究されていない。それは、過去半世紀の米国での不況は、短く、特定の産業しか影響されなかったからである。従って、不況下という厳しい環境で適切な戦略的対応というのは、今まで研究されていない。2008年夏に米国で勃発した大不況の環境は、「不況下での競争戦略」を研究するのに適切なセッティングであった。

不況というものは、突然起きる。しかも、バブルで超好景気になった途端に、ものすごいスピードで景気が落ち込む。バブルに踊ってしまって、大量の借金をして大投資等をしてきた企業の多くは倒産しかねない状態になりうる。いずれ景気は底を打ち、徐々に景気回復してくる。従って、不況には2つのステージが考えられる。一つは不況勃発後の不景気であり、2つ目は、その後の緩やかな景気回復である。

となると不況時の戦略の要は、不況勃発直後に企業がどのような資源や競争力を蓄えていたかとなる。さらに、幸運にも不況勃発時に持っていた資源等を不況勃発後数ヶ月の間に使うことによって、景気回復時により高い業績を上げられるか、否かが問題となる。

2. 研究の目的

従って、研究プロジェクトの目的は、主に2つあった。一つは、不況勃発時に、企業が持っていた余裕資源(例:スラック(余裕資源、資金)、競争力や社会的資本)が、景気回復時により高い業績につながるか、どうかを調べることであった。2つ目の目的は、それらの余裕、余分資源を不況勃発後数ヶ月の間に使用することが景気回復時においてより高い業績を上げられるかを検証することであった。

3. 研究の方法

不況勃発時に、企業が持っていた資源が不況の2つの期間(不況で景気が急激に悪化する期間といずれ景気が回復する期間)で企業業績に与える影響を調べるのに適している統計処理方法は階層線形モデルであるので、このプログラムを多くの論文で用いた。回帰分析のような統計プログラムがうまく当てはまらない理由は、不況期間中に、業績が底を打つタイミングが、企業によって違うからである。

この階層線形モデル・プログラムに適したデータを収集した。まずは、日米企業の財務データを用いて、業績との関係を調べた。これらの調査結果を参考にして質問紙を完成させ、日米企業に回答してもらった。

4. 研究の成果

(1)スラック資源とは、企業が特定のアウトプットを生産するのに必要な最小限の資源よりも、多くある資源のことである。つまり、必要最小限以上の資源(例:現金、流動資産)がある企業である。財務的スラックを大不況が始まる直前により多く持っていた企業の業績が、大不況が始まってどう変化するかを研究した。研究では、財務的スラックをより多く持っていた企業は不況が始まった直後、より業績は下がるのが判明した。また、多くの論文では、不況勃発後約半年後の回復期間で財務的スラックをより多く持っていた企業の業績は、持っていなかった企業の業績よりも高くなることが分かった。

さらに、不況勃発直後のスラック資源の存在はあまり関係ないが、スラックを減少させる企業の方が業績をより高く回復させる傾向が見られた。これらの関係はスラックの種類(例:現金、流動比率)によって少し違うことが検証された。

財務データを使った分析結果と経営者へ

の質問紙でデータを分析したものは、だいたい同じようなスラックー業績の関係であった。

(2) 2008年米国発大不況が起こり、業績不振に陥った日米企業のターンアラウンド戦略を研究した。特にターンアラウンド戦略の要といわれるリトレンチメント行動(コスト削減)と業績回復の関係を調べた。しかし、ターンアラウンド戦略が選択される環境は、不況環境とは異なる。ターンアラウンドが必要な企業は何らかの理由(例:需要低下、経営者の判断ミス)で数年間かけて業績不振に陥ったのであるから、経営資源に余裕が無い。その反面、不況が理由で業績が悪化した企業は余裕がある可能性が高い。リトレンチメントするよりは、宣伝費等の費用を増やして市場シェアを獲得するチャンスであるということが判明した。

(3) 企業の Innovative 競争力が不況勃発直後と半年後からの業績への影響を調べた。不況勃発直後では、影響が見られなかったが、半年後からの業績上昇には影響があった。技術革新的な競争力が高い企業ほど回復がはやかった。

(4) 不況勃発直後に企業が持っていた外部的社会資本やスラック(余裕資源)の存在とその使用がどのように企業業績に影響するかを調べた。興味深いことに、外部的社会資本も、スラックとほぼ同じようなインパクトを業績に与えていた。

(5) ここまでは、スラックや社会資本等の業績への直接的関係を見てきたが、スラックー企業業績関係に調節の効果を持つと思われる経営者の不況による影響の大きさに関する認識を調べた。スラックー業績の関係は、不況による影響の大きさによ

って違うことが分かった。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 3件)

並木伸晃、2008年米国発大不況での財務的スラックとスラック削減の企業業績へのインパクト: 米国電気小企業のケース、立教ビジネスレビュー、査読無、7巻、2014、印刷中。

並木伸晃、The impact of Slack Reduction on Performance Turnaround during the Great Recession: The Case of U.S. Electronics Companies、立教ビジネスレビュー、査読無、6巻、2013、56 - 62 .

並木伸晃、不況環境下でのリトレンチメント(再生)戦略と企業業績の関係: 2008年米国発大不況下の日米機械企業のケース、立教ビジネスレビュー、査読無、5巻、2012、2 - 8 .

[学会発表](計 10件)

並木伸晃、The Effect of Environmental Shock and Uncertainty on Financial Slack and Firm Performance During the Great Recession: The Case of Small-sized Japanese Electronics Companies, presented at the Academy of International Business Southwest Asian Regional Conference, 2013年12月5日~2013年12月7日、Bali, Indonesia.

並木伸晃、不況環境下での External Social Capital(外部的社会資本)と企業業績の関係: 2008年米国発不況のケース、経営行動科学学会の全国大会、2013年10月26日~2013年10月27日、名古屋大学。

並木伸晃、The Performance

Implications of Financial Slack and Its Reduction during the Great Recession: The Case of Small-sized Japanese Electronics Companies, presented at the Clute Institute International Academic Conference, 2013年8月5日～2013年8月7日、Breckenridge, Colorado, U.S.A.

並木伸晃、The Performance Implications of Slack Reduction during the Great Recession: The Case of U.S. Electronics Companies, presented at Southwestern Academy of Management Conference, 2013年3月13日～2013年3月15日、Albuquerque, New Mexico, U.S.A.

並木伸晃、The Role of Slack Reduction on Performance Turnaround during the Great Recession: The Case of Japanese Machinery Companies, presented at the Academy of International Business Conference, Midwest Region, 2013年2月27日～2013年3月1日、Chicago, Il., U.S.A.

並木伸晃、2008年米国発大不況により業績悪化した米国電気企業のスラック資源減少と業績の関係：パネルデータ分析、経営行動科学学会の全国大会、2012年11月17日～2012年11月18日、神戸大学。

並木伸晃、The Impact of Slack Reduction On Performance Turnaround during the Great Recession: The Case of Japanese Electronics Companies, presented at the 3rd International Conference on Business, Economics and Tourism Management (CBETM), 2012年10月27日～2012年10月28日、Hong Kong, China.

並木伸晃、The Performance Implications of Firms' Innovative Capabilities during Economic Recession: The Case of U.S. Electronics Companies in the Great Recession (2008 to 2011), presented at the Academy of Business Research International Conference, 2012年9月10日 - 2012年9月12日、Atlantic City, NJ, U.S.A.

並木伸晃、日米企業のリトレンチメント（再生）戦略と業績の関係：2008年米国発大不況のケース、経営行動科学学会の全国大会、2011年11月26日、明治大。
並木伸晃、不況環境下での財務的スラックと企業業績の関係：2008年米国発大不況と日本電機産業のケース、経営行動科学学会の全国大会、2011年11月26日、明治大学。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

並木 伸晃 (NAMIKI, Nobuaki)

立教大学・経営学部・教授

研究者番号：70303104